

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2013年4月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、4月19日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「一部に持ち直しに向けた動きがみられる」としました。この基調判断は2か月連続となります。需要項目別にみると、個人消費（観光を含む）は、強（サービス<観光>）弱（財）区々の動きとなっています。2月の大型店売上高は、前年（うるう年）に比較し営業日が1日少なかったこともあって減少しました。自動車販売は前年（エコカー補助金により増加）の裏から前年比では減少しましたが、低燃費車人気から実勢では底堅く推移しています。観光はインバウンド観光客を中心に持ち直しています。公共投資は下げ止まっています。設備投資は底堅く推移しています。住宅投資は、一進一退の動きとなっています。この間、雇用・所得面では労働需給面を中心に改善の動きが続いており、道内の雇用者所得も下げ止まりつつあり、前年並みで推移しています。当月の生産は前年（うるう年）に比較し稼働日数が一日少なかったことから弱めの動きとなりましたが、一部で円安に伴う輸出増加等の前向きな動きがみられています。

この1～3月は暴風雪の影響が幅広い業種でみられました。また、円安による原燃料の価格上昇もマイナス要因です。4月1日に公表した道北地域の3月短観をみても、仕入価格判断D.I.（仕入価格が上昇と答えた企業の割合から下落と答えた企業の割合を差し引いて算出）は26%ポイントと、前回（2012年12月）調査（17%ポイント）に比べて上昇しました。先行き6月までの予測は、41%ポイントと、更なる上昇を見込んでいます。

しかしながら、円高修正や株高等が企業や家計のマインド面だけでなく、ごく一部で实体经济にも影響を及ぼしつつあること、先月と状況は変わりありません。当地製造業の一部で輸出増加等の前向きな動きがみられています。観光もインバウンド観光客が均してみれば増加傾向にあります。また、悪天候やスーパー等における競合激化の影響から弱めの動きが続いている大型店売上高でも、一部ブランド品や時計などの販売が好調です。こうしたこともあってか、3月短観では、業況判断の先行き6月までの予測が改善しました。企業は先行きの不確実性を保守的にみるため、先行きの業況判断D.I.は現状対比で悪化するのが普通です。道北地域において先行きの業況判断D.I.が改善するのは、3年3か月振りのことです。

現状指標面で大きな改善はみられておらず、景気の「気」先行の改善であるという感は否めません。しかしながら、先行きに対する期待は、はっきりと高まってきています。

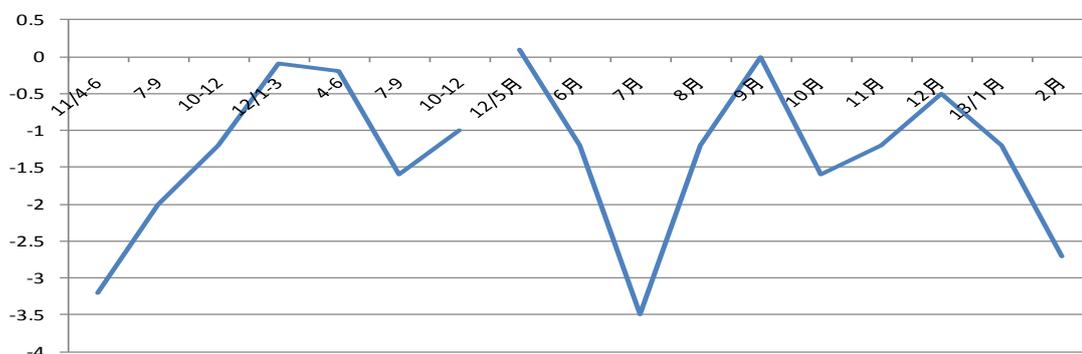
主な特徴点は下記の通りです。それ以外については、[金融経済概況](#)をご覧ください。

まず、個人消費（観光を含む）です。

2月の大型店売上高（ $\Delta 2.7\%$ ）は、営業日が前年（うるう年）に比べ1日少なかったことを主因に弱めの動きとなりました。スーパーでは競合激化等からあまり冴えない動きとなっている一方、大型店で一部ブランド品や時計の売上げが好調等一部で消費者マインドの改善を窺わせる動きがみられています。

【道北地域の大型店売上高推移】

前年比・%

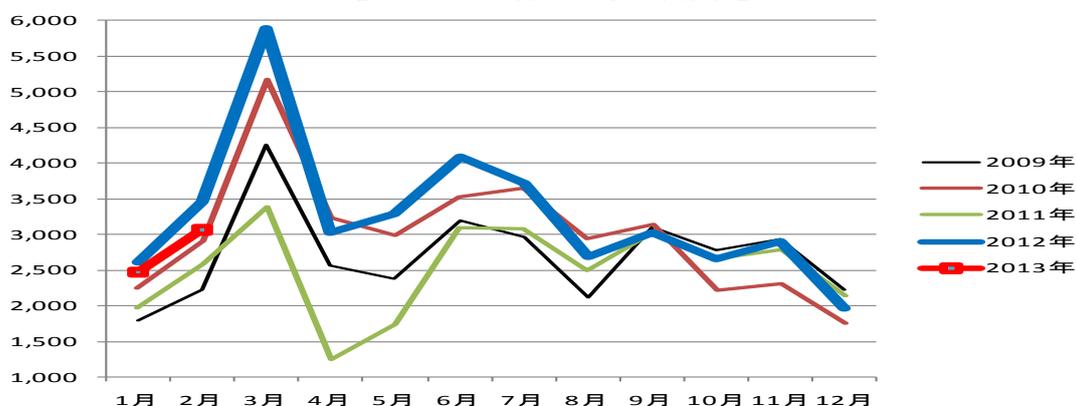


3月も度々大雪に見舞われ、客足が鈍ったことがマイナス要因となっています。一方、月末にかけては気温の上昇から、春物が少し動きはじめた、との声も一部で聞かれました。

新車登録台数は前年（2011年12月から2012年9月までエコカー補助金により水準が嵩上げ）の裏から2月は△11.3%と減少しました。もともと、低燃費車人気から実勢では底堅い動きが続いており、大きな反動減がみられた前回エコカー補助金終了（2010年9月）後の動きとは異なっています（ちなみに、前々年<2011年2月>比では+18.9%）。

【道北地域の新車登録台数推移】

台



観光はインバウンド観光客の増加等から持ち直しの動きが続いています。

2月は増加しました。国内観光客は悪天候の影響（ウトロ温泉地区や網走・温根湯地区などで航空機の遅延や道路の通行止めに伴うキャンセルが発生等）が広範にみられたものの流水関係の観光客は好調であったほか、インバウンド観光客が春節時期の相違（今年は2月、昨年は1月）に加え円高修正などから大幅に増加しました。このため、全体では宿泊客は増加し、客室単価も上昇しました。

インバウンド観光客について去年と今年の春節時期の相違を調整するため、1、2月合計でみると、富良野・美瑛地区合計で前年比+20.1%となり、順調に増加が続いていると評価することができます。

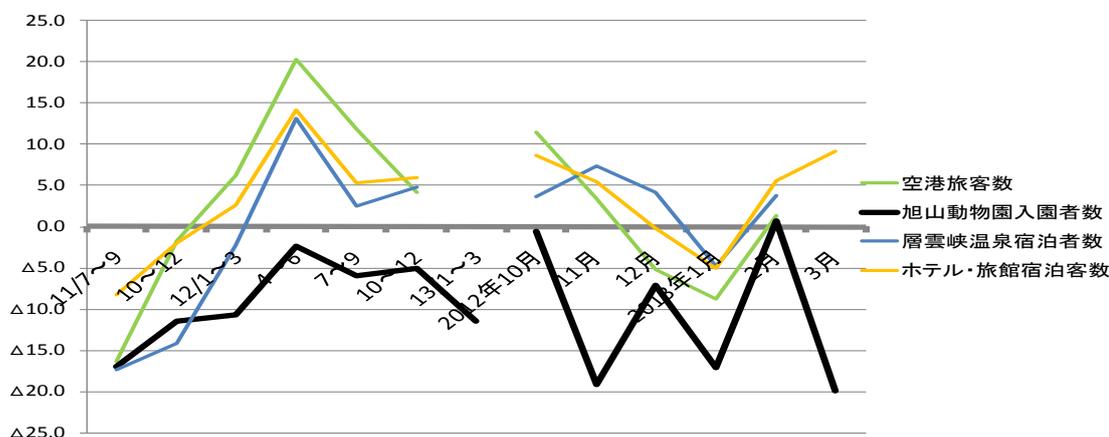
【層雲峡地区および富良野・美瑛地区における外国人宿泊者数の動向】 人、前年比%

		2013年1月	2013年2月	2013年1～2月
層雲峡地区	人数	9,703	18,046	27,749
	前年比	-12.3	47.5	19.1
富良野・美瑛地区	人数	2,865	3,376	6,241
	前年比	-3.2	65.1	24.7
合計	人数	12,568	21,422	33,990
	前年比	-10.4	50.0	20.1

国別では台湾が引続き増加基調にあるほか、シンガポール、香港、タイ、マレーシアも好調です。中国はまだ本格的に回復していないものの、個人客は一部戻ってきています。

【道北地域の観光動向】

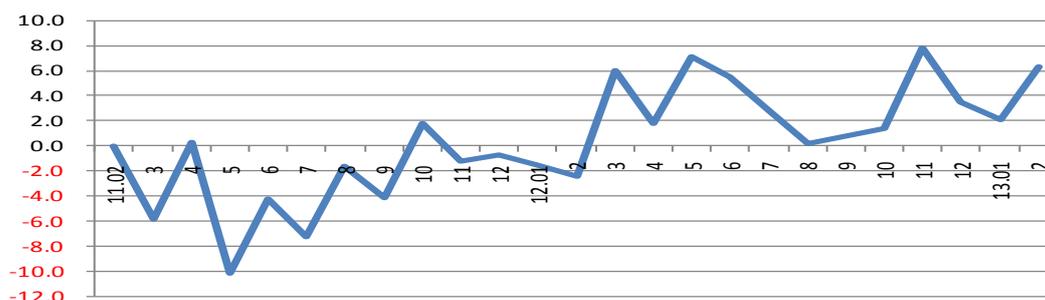
前年比・%



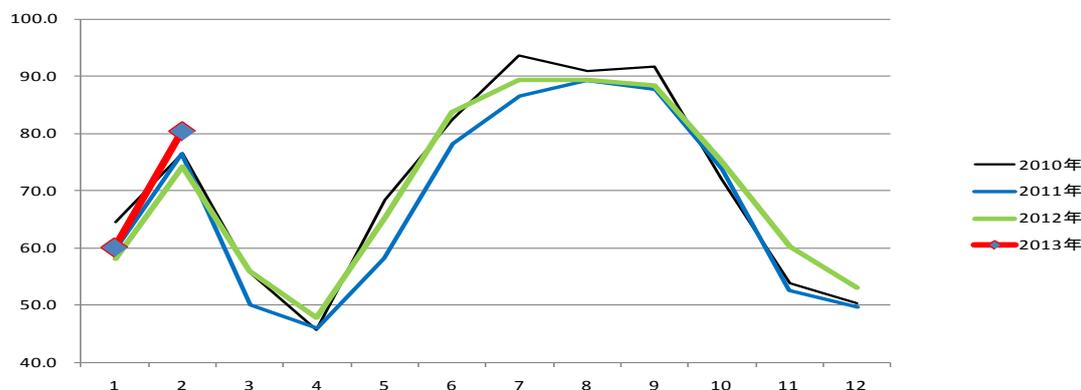
旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前年差推移をみると、下図の通り、2012年3月以降、震災のあった前年を上回っており、改善の動きが続いています。春節時期の相違の影響から1月は+2.1%の改善となった後、2月は+6.3%と大きく改善しました。2月の客室稼働率 80.4%は、過去4年間で最高となります(次ページ図参照)。主要ホテルでは「宿泊単価も上昇した」との声が聞かれています。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前年差推移】

%ポイント



【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の月別推移】 %ポイント

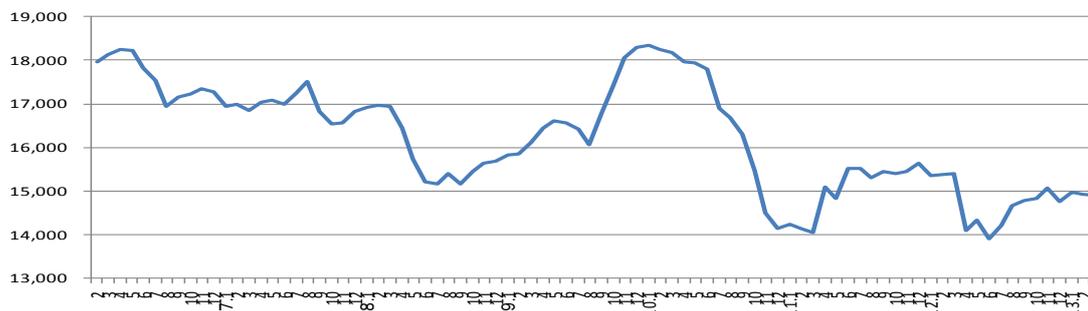


3月は知床（ウトロ温泉）、網走（温根湯温泉）、層雲峡など様々な地域で悪天候によるキャンセルの影響がみられましたが、インバウンド観光客は各地好調でした。層雲峡では氷瀑まつりの期間延長の効果もみられ、高目の伸びとなった模様です。この結果、ホテル・旅館宿泊客数は増加しました。4月は雪目当てのインバウンド観光客もいなくなり、特に旭川地区は旭山動物園の休園もあって、年間で一番の閑散期となります（上記グラフをご覧ください）。今年も同様の動きであり、今年には特にイベント需要もないことから、一時的に客室稼働率は低下しそうです。ゴールデンウィーク中の予約は、「好調で、客室単価も上昇している」との声が聞かれた一方、「道内客は間際予約が定着しており、仕上がりがどうなるかはまだ見通し難い」、との声も聞かれています。円安もあってインバウンド観光客が好調を持続する可能性が高いことなどから、均してみれば持ち直し基調が持続するものとみられます。

公共投資は下げ止まっています。2月の公共工事請負金額をみると、上川総合振興局管内で増加したものの、宗谷およびオホーツク総合振興局管内では減少し、3 総合振興局合計でも2か月連続で減少しました（△8.9%）。ただし、振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通り、下げ止まっています。2012年度初来累計では、+6.5%です。

新年度に入りましたが、4月上旬の段階では融雪の遅れで工事遅延の影響がみられていたほか、工事発注も本格化していません。一方で労務単価等は上昇傾向にあり、建設会社の収益環境は大幅に改善したとは言えません。この間、供給制約（機材不足や発注者側を含む人出不足）に伴う悪影響が夏場以降大きくなることを懸念する声が強まっています。こうしたこともあって、3月短観では建設の業況判断に大きな改善の動きはみられませんでした。もっとも、新年度予算や2012年度補正予算（全額2013年度に繰り越し）の執行が本格化するに従い、公共投資ははっきりと増加に転じていく見込みであり、コンクリート製品や土砂等の売上げ増加や建設作業員の所得増加など、様々な経路を通じ景気押し上げに寄与していくものとみられます。

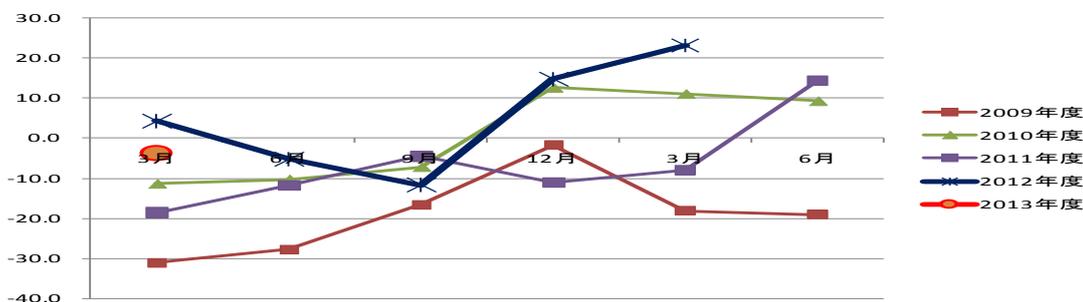
【道北地域の公共工事請負金額推移（後方12か月移動平均）】 百万円



設備投資は、底堅く推移しています。

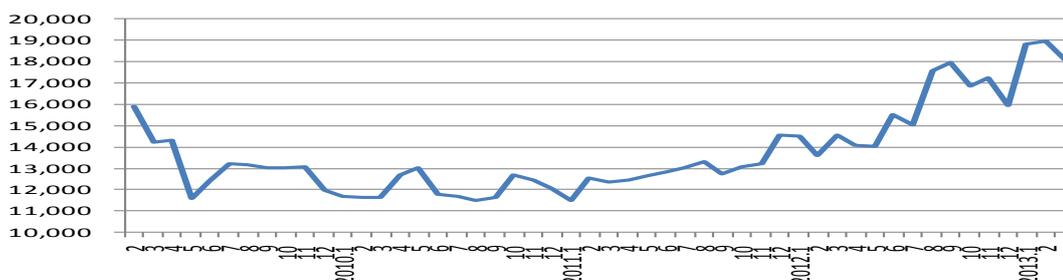
道北地域の「企業短期経済観測調査」（2013年3月調査）における2012年度の設備投資実績見込額は12月調査比+7.3%上方修正され、+23.2%となりました。窯業・土石製品および鉱業・採石業で上方修正されています。今回調査から利用可能となった2013年度計画は▲3.7%の減少と、3月調査としては過去5年間で2番目の水準であり、この時期としては比較的しっかりとした計画となっています（設備投資計画は、内容が固まった段階で計上されることが多いため、期を追う毎に上方修正される傾向にあります）。

【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】 前年比・%



設備投資と関連性がある建築確認申請床面積（非居住用）については、2月は大幅に減少しました。ただし、振れを均すために後方12か月移動平均でみると、下図の通り2011年以降着実に持ち直しています。

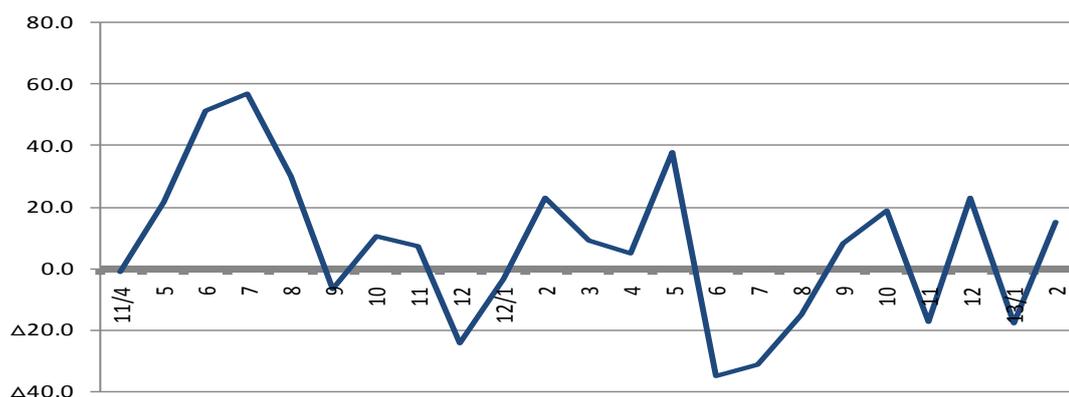
【主要4市の非居住用建築確認床面積推移（後方12か月移動平均）】 m²



住宅投資については、昨年秋以降、一進一退の動きとなっています。2月の新設住宅着工戸数は2か月振りに増加しました。2012年6～8月に前年（住宅エコポイント終了前の駆け込み需要等から大幅に増加）の裏要因から大幅に減少した後、9月以降は9、10月と2か月連続で増加した以外は増加と減少を繰り返しており、一進一退の動きになっています。なお、まだ統計上には反映されていませんが、消費税引き上げ前の駆け込み需要もあって、住宅購入を真剣に検討する顧客が増えてきている、との声が一部から聞かれています。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】

前年比・%



2月のオホーツク漁業（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）は、数量はほっけの増加を主因に増加しました（+29.6%）が、金額はほっけに比べ単価の高いすけそうの減少から微減（△2.9%）となりました。もっとも、1月から3月までは端境期となります。

製造業の生産は、前年（うるう年）に比較し稼働日が1日少ないこともあって、当月は全般的に弱めの動きとなりましたが、一部で円高修正に伴う輸出増加等の前向きな動きもみられています。

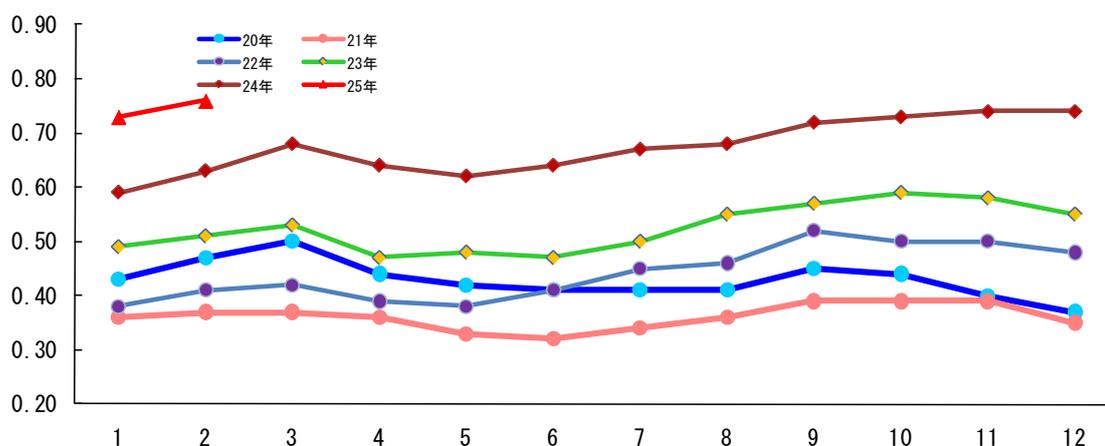
製材の生産は自動車等向けこん包材需要の減少等から12か月連続で減少しました。もっとも、円安に伴う輸入品の流入減少や先行きの需要増加期待に伴う在庫積増しの動きから需給は引続き改善傾向にあり、減少幅は緩やかながら縮小傾向にあります（前年比：2012/10～12月△8.3%→2013/1月△5.7%→2月△5.2%）。合板は手間のかかる高付加価値品へのシフトが進んでいることから1月は△3.6%の減少となりましたが、大手工場では実質フル操業が続いています。紙・パルプは前年に比較し稼働日数が一日少ない中、印刷用紙を中心に減少しました。もっとも雑種紙は生産ラインの調整があったにもかかわらず円安で輸出採算が改善していることから増加しました。電子部品関連は、一部製品の作り込み終了から減少しました（合板は1月、その他は2月計数に基づく）。

雇用面では、労働需給の改善の動きが続く中、道内の雇用者所得も下げ止まりつつあり、前年並みで推移しています。

労働需給は改善しています。2月の有効求人倍率は、北見地区は前年を下回ったものの、その他の3地区で前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、前年を上回る状態が続いています。2月の旭川地区における常用新規求人数は+14.3%の増加となりました。業種別には建設業（+23.8%）、運輸業、郵便業（+33.6%）、卸売業、小売業（+25.1%）、紹介・派遣、その他の事業サービス業（+28.7%）などで増加しました。2月の旭川地区の職業別有効求人倍率（パートを除く常用）中需給がひっ迫している業種は型枠大工・とび工（2.73倍）、建設・土木作業員（1.86倍）、ホームヘルパー・ケアワーカー（1.67倍）、医師・薬剤師等（5.00倍）などで、需給が緩んでいる業種は一般事務員（0.24倍）などとなっています。道内の雇用者所得は、一人当たり名目賃金は低下傾向にある（たとえば、冬季賞与は微減<北海道中小企業団体中央会調べで▲0.91%、北海道経済連合会調べで▲0.02%>）ものの、常用労働者数の増加から下げ止まりつつあり、前年並みで推移しています（道内の雇用者所得前年比：2012/10～12月+0.2%）。

【旭川地区の有効求人倍率推移】

倍



2013年4月19日

荒木 光二郎